

サビエル生誕五百年



巡礼の道

371

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

迷える一匹の小羊

ロシア正教、日本へ⑤



取り壊された教会の

ステンンドグラスの飾り

川端康成ら著名な作家が常宿としたこと有名な「山の上ホテル」。ここに泊まるのは三回目だ。

東京での宿の手配はいつも娘がしてくれてる。「もつと安いところを」と言う。「東京駅から近いし、ニコライ堂に歩いて行けるから」と。今回の目的はニコライ堂だから申し分ない。その上、朝食のルームサービスは気に入っている。書くことが少しはうまくなるのではという馬鹿げた思いもある。

山の上ホテルはその名の通り小高い丘の上にある。ホテルから坂道を降りてぶつかる大通りが「明大通り」、ホテルの散歩マップによると、明大、日大、医科歯科大、順天堂大、東大など大学が八つもある。ほぼその中央の御茶ノ水駅近くにあるニコライ堂に大学生や若者が来ているかといえ、そんな様子はな

い。聖堂内を説明してくれるボランティアの信徒によると「若者は少なく、信徒の高齢化が目立ち、信徒数も減少している」とい

う。先日、イギリスから帰った娘の土産の一つは教会のステンンドグラスの飾り(写真)。教会が取り壊された時の廃物を利用したものだという。そういえば、新聞に「消えゆく教会」という見出しの特集記事があった。ヨーロッパの教会は信徒が減少して

教会が維持できなくなり、ほかの目的の施設に改修されたりしているという。天井が高いのでサーカス学校になったり、ひどいのはイスラム教のモスクになったものもあるとか。最大の理由は宗教離れである。これは何もヨーロッパに限ったことではない。日本や先進国の多くに宗教離れ、教会離れが目立つ。カトリック教会では貧しい発展途上の国では信徒が増えている。貧富が信仰に関係するのだろうか？ イエスの言葉に「貧しい人は幸い」とある。とにかく現代は以前よりはるかに便利で、物質的に豊かになり、娯楽も満ちあふれている。このよ



うな状況が神を必要としない人を増やしたのだろうか。

一方では年間三万人を超える自殺者、高齢化社会の中で孤独に苦しみ、病院の待合室には老人があふれている。古い、孤独、認知症、死などが身近な問題となり、閉塞感が漂う。

信仰とは何だろう。キリスト教信仰は、神を信じ、その神から愛され、永遠のいのちに復活する。神を信頼して生きることだと理解している。知識としてわかって

きた。その教会離れが目立つ今日の社会、神はおられるのか、人が神をつくってないか。このシリーズの結びとしては寂しいのだが、私も迷える一匹の小羊なのである。